

## 外来担当医表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	藤原 大徳	藤原 鈴島 宮川	下村 渡邊	藤原 渡邊	下村 宮川
午後	下村	渡邊		宮川 鈴島	大徳

## 医師紹介

院長

**鈴島 仁** Hitoshi Suzushima

担当分野 血液疾患・感染症

内科診療部長

**下村 泰三** Taizo Shimomura

担当分野 血液疾患・内科一般

血液内科 部長

**宮川 寿一** Toshikazu Miyakawa

担当分野 血液疾患・内科一般

血液内科 医長

**藤原 志保** Shiho Fujiwara

担当分野 血液疾患・内科一般

血液内科 医長

**渡邊 祐子** Yuko Watanabe

担当分野 血液疾患・内科一般

医師

**大徳 勇人** Hayato Daitoku

## ACCESS

交通アクセス



### バスでお越しの場合

熊本駅から

- 「第一環状線(大学病院方面)」に乗車  
↓  
消防局防災センター前 下車 徒歩5分
  - 「中央環状線(大学病院方面)」に乗車  
↓  
消防局防災センター前
- もしくは 県立劇場前 下車 徒歩5分

くまもと桜町バスターミナルから

- 「県立劇場線」  
「長嶺小学校・免許センター線」に乗車  
↓  
消防局防災センター前 下車 徒歩5分

### 診療科

総合診療科、肝臓・消化器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、リウマチ膠原病内科、呼吸器内科、代謝・内分泌内科、外科、乳腺外科(乳腺センター)、産婦人科、整形外科、眼科、皮膚科、麻酔科、緩和ケア科、腫瘍精神科、放射線科、リハビリテーション科、病理診断科

TAKE  
FREE

三三医療情報誌

# しんと通信

SHINTO

No.

02

2024.4



血液内科より

## 貧血について



KUMAMOTO  
SHINTO  
General Hospital

つながる医療。ひろがる未来。

医療法人 創起会

くまもと森都総合病院

〒862-8655 熊本市中央区大江 3-2-65  
TEL 096-364-6000 (代表)  
FAX 096-362-5204  
<https://www.k-shinto.or.jp>



血液内科より

## 貧血について

院長  
鈴木 仁  
すずま ひとし



### 01 | 貧血について

貧血という言葉を知って、病気（疾患）の一つと認識される方は比較的少ないのではないのでしょうか。貧血の定義は血液中の赤血球成分であるヘモグロビンが低下している状態ですが、“脳貧血”などという俗語があるように、血のめぐりが悪いことも貧血と誤解されたりしています。最も頻度の高い貧血は鉄欠乏性貧血で閉経前の女性によく見られる貧血であり、

月経出血による鉄の喪失が原因です。閉経前の女性であれば誰にでも起こる疾患ですが“貧血気味”という言葉などがよく使われ、あまり病気と認識されていないようです。



### 02 | 鉄欠乏性貧血

本来であれば貧血を起こさないよう、定期的に検診などで血中のヘモグロビン値とフェリチン（貯蔵鉄）値を測定し、鉄不足（フェリチンが低値）であれば鉄剤を服用してフェリチン値を正常に戻さなければいけないのですが、日本は他の先進国に比較して患者数が多く、日本人女性の8～10%程度が罹患しています。実際に検診で指摘されても、「女性だから貧血は当たり前だと思っていた」という程度の認識で放置されていることも多いのが現状です。貧血も鉄欠乏も長期に続くと、内臓の中でも特に酸素を必要とする脳や心臓などへの影響が懸念されるため、是非、鉄剤内服治療をお勧めします。鉄剤は吐き気が出るため服用できないということもしばしば経験します。現在は、週1回の注射を2～3回行うだけで鉄欠乏を改善させる方法もありますので、是非、血液内科や婦人科に相談して下さい。



### 03 | その他の貧血

ただ残念なことに、診療の現場でも正確な診断が行われずヘモグロビン値が低いだけで鉄剤が処方されている現実がありますが、一部に鉄剤が奏功しない貧血もあります。その一つに病名が悪性貧血という好ましくない名前がついてしまった高齢者に多い貧

血があり、これは胃にある壁細胞に対して自己の抗体が産生され自分の胃壁を攻撃して壊してしまう自己免疫疾患で、口から摂取したビタミンB12が吸収しにくくなって不足した結果、貧血を起こす病気です。診断さえつけば治療は簡単で、ビタミンB12を注射してあげると劇的に改善します。そのほかに野菜に含まれる葉酸、微量元素の銅や亜鉛も欠乏すると貧血を誘発することも知られています。カップラーメンばかり食べている場合やアルコール依存となって野菜が全く採れていないなど食生活に問題がある際は考えなくてはならない貧血の一つです。

もう一つ、同じ貧血でも治療に難渋する高齢者に多い疾患があり、骨髄異形成症候群という骨髄の病気です。この病気の診断には骨髄穿刺という検査が必須になります。貧血に対して鉄剤を処方しているのに改善しないということで専門病院に紹介される患者さんによく見られます。進行は緩徐な疾患ですが進行すると急性白血病を併発したり骨髄不全となって輸血依存になったり肺炎などの感染症を併発しやすくなります。初期には貧血に対してホルモン療法や分子標的治療、免疫抑制剤などを投与しますが、多くは治療抵抗性となって最終的には進行し致死的になります。完治を目指す唯一の治療は同種造血幹細胞移植（骨髄移植など）ですが、一般的には60～70歳までしか行えません。いずれにしても、貧血に関しては正確な診断と治療を行うことが重要で、「たかが貧血」という考えを改めていただければ幸いです。